

情報システム学会 早春講演会

2021年2月27日（土） ◆ZOOM開催
13:30-16:00

「未来を創る人間中心のデジタル トランスフォーメーション(DX)」

新型コロナ第三波に見舞われている中、社会変化の大波を乗り越えるためにもデジタルトランスフォーメーション（DX）が必須とされております。

本年は、政府もデジタル庁を発足させ、社会のデジタル化も一層加速されるものと考えます。その中において、技術一辺倒ではなく、人間中心の考え方がより必要とされています。この様な中で当講演会は、それぞれ知見の深い3名の方にご登壇いただきます。

第1部 13:35~14:15

『デジタルトランスフォーメーションの加速に向けたDX推進 政策の第2幕～DXレポート2とアーキテクチャ戦略を中心に～』

経済産業省では『DXレポート～ITシステム「2025年の崖」の克服とDXの本格的な展開～』の続編として、2020年末に「DXレポート2（中間取りまとめ）」を公表した。コロナ禍対応により世界のデジタル化は加速する一方で、押印や書面をそのまま電子化することどまっている我が国ITシステムの状況を踏まえ、国内外の動向とともに、DX推進のためのアーキテクチャ戦略を含めたDXの政策展開について紹介する。

講師：和泉憲明氏 商務情報政策局アーキテクチャ戦略企画室長
(併) ソフトウェア・情報サービス戦略室



静岡大学情報学部 助手、産業技術総合研究所（産総研）サイバーアシスト研究センター・研究員、産総研・情報技術研究部門・上級主任研究員などを経て平成29年8月より経済産業省商務情報政策局情報産業課企画官、令和2年7月より現職。博士（工学）（慶應義塾大学）。

その他、東京大学大学院・非常勤講師、北陸先端科学技術大学院大学・非常勤講師、大阪府立大学・文書解析・知識科学研究所・研究員、先端IT活用推進コンソーシアム（AITC）顧問などを兼務。

第2部 14:20~15:10

『データ資産化を進めるための要件』

DXを一過性のブームにしないためには、新しいIT技術をビジネスに取り込むことだけに偏重せず、古くからあるデータ資産化の基礎概念やその運用スタイルを組織に根付かせることも重要である。DXを砂上の楼閣にしないためにも、しっかりとしたデータ資産化の土台をつくりつつ、ビジネス上のアジリティーに応えていくことが求められている。しかし、データ資産化の試みも簡単ではなく、過去何度かトライし、失敗した経験を持つ組織も多いのではないだろうか。少なくとも一朝一夕に達成できることではない。データ資産化達成の鍵となる、データ利活用側から理解できるデータの流通、データガバナンスの考え方、技術者に求められる原理原則とマネジメント要件について、導入経験を踏まえながらご紹介する。

講師：北村充晴氏 当学会賛助会員 株式会社プライド 代表取締役社長



1989年、広島大学経済学部卒。独立系システムインテグレーターを経て、1997年に株式会社プライド入社、2016年より同社社長、2019年に株式会社鳥取銀行取締役、2020年に株式会社DXコンサルティング取締役。ソフトウェア情報学博士（岩手県立大学）。

ユーザ企業を支援する立場から、IT全体最適化計画の立案、プロジェクト実現性検証、業務改善先行のシステム設計～設計監理およびITガバナンスに関わるコンサルティングに従事する。特に、企業におけるデータの資産化を推進するエンジニアリング的アプローチを得意領域とする。

著書には、「上流・下流から改善・監査までわかるシステム開発のすべて」 日本実業出版社

第3部 15:15~15:55

『ベンチャーが挑む人間中心のデジタルトランスフォーメーション』

コンピュータとインターネットによって進行した第三次産業革命から、IoT、AI、5G/6Gがキーテクノロジーとなる第四次産業革命へ、現在はその転換期にあたると言えるだろう。第三次ではデジタル化と自動化が焦点となっていたのに対し、第四次では人間中心のDXがきわめて重要な課題となる。

その変革を先導しているのがベンチャーである。自動車産業を例にとると、製造業からモビリティサービス業へという変化の背景には、移動者の視点に立って交通の課題を解決するサービス「MaaS (Mobility as a Service)」を生み出した、フィンランドのベンチャーの活躍があげられる。本講演では、人間中心のデジタルトランスフォーメーションに挑む国内外のベンチャーの事例を紹介しつつ、第四次産業革命の進展を展望する。

講師：砂田薫氏 当学会副会長 国際大学GLOCOM 主幹研究員



ビジネス系コンピュータ雑誌の記者・編集長を経て、2003年に国際大学GLOCOMに入所、研究職に転じる。主な研究テーマは、技術と社会の進化、北欧型デジタル社会。総務省情報通信審議会専門委員・情報通信白書編集委員、経済産業省産業構造審議会臨時委員を歴任。

◆参加費

賛助会員 1口2名様 無料 3名様以降はお一人 1,000円
学会の個人会員 1,000円
非会員 3,000円

◆参加申込

2月24日（水）までに、メール issj-office@issj.net で
下記内容を記載の上、お申込みください。

- ①参加者氏名
- ②参加区分（会員は会員番号・非会員の場合は所属）
- ③メールアドレス
- ④ZOOM入室時の表記名

◆招待メール

入金が確認できましたら前日までに招待メールをお送りいたします。
招待メールが届かない方は、必ず当日12時までに事務局あて
ご連絡願います。講演会が開催されてしまいますと招待メールを
お送りすることができない場合もございますのでご了承ください。

◆振込先

以下のいずれかをお願いいたします。
（ご本人様のお名前でお振込み願います。）

- ・三菱UFJ銀行 市ヶ谷支店（014）普通預金 0087521
- ・みずほ銀行 九段支店（532）普通預金 1714392
- ・ゆうちょ銀行 〇一九支店（019）当座預金 0300365
- ・郵便局窓口にてお支払いの場合
口座記号・番号00180-7-300365
社）情報システム学会（シヤ）ジョウホウシステムガッカイ）

※領収書をご希望の方はご連絡願います。Pdf形式の領収書を
メールでお送りいたします。

情報システム学会 (Information Systems Society of Japan)

情報システムが社会発展の推進力となってきています。情報システム学会は社会の仕組みを情報システムと考え、研究者、実務家、一般市民、行政など幅広い人々が参加し、技術に限定せず総合的に広く研究します。その成果を発信し、人間中心の情報システムの普及を通じて、より良い社会の実現を目指します。本学会は日本学術会議指定の「協力学術研究団体」です。

お問い合わせ・お申込み

一般社団法人 情報システム学会 事務局

Mail : issj-office@issj.net

URL : <https://www.issj.net/>